

ごきげんな環境づくり

すきっぷすまいる通信

令和2年7月 第7号
発行 ICC株式会社

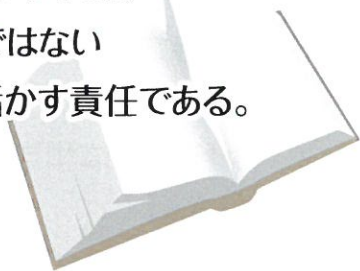
すきっぷすまいる通信は、ICC(株)と関わりを持っていただいている方にお送りしているおたよりです



ドラッカー名言集

名言からドラッカーを学ぼう

マネジメントとは
権力ではない
人を活かす責任である。



初夏の候、お元気にご活躍のこととお喜び申し上げます。
コロナ禍により世界中で二酸化炭素の排出が削減されたというニュースがありましたね。でも、地球の温暖化を止めることはできないそうです。世界中が一定期間、すべての経済活動を抑止しても、この問題は解決できないということですね。
私たちに求められるのは、動きを止める、我慢するということではなく、エネルギーそのものをつくり方、使い方に、知恵をつかうということでしょうか。

ドラッカーと環境経営

事業の定義

すがのコラム 第7回

ハーバードビジネスレビュー1995年1月号に、ドラッカーの有名な論文『企業永続の理論』が掲載されている。

紹介文には「今まで成功を収めてきた組織の多くが、現在困難に陥っている。それは前提としてきた「事業の定義」が、新しい現実とそぐわなくなったのである。「事業の定義」は、常に見直し、環境変化に対応させていかねばならないのだ。」とある。

「事業の定義」は三つの部分から構成されており、①組織を取り巻く環境に関する前提、②組織の特定の使命に関する前提、③組織の使命を達成するために必要な中核となる強みとなる前提がある。それぞれ①組織が何のために存在するか、②組織が何をもって意義ある成果と考えるか、③組織がリーダーシップを維持していくためにどの点で優れなければならないか、を定義するものである。

有効な事業の定義には4つの内容がある。

- ①環境、使命、中核的強みに関する前提は現実に適合したものでなければならない。
- ②三つの前提はそれぞれ、他の前提と適合しなければならない。
- ③事業の定義は組織全体に知られ、理解されなければならない。
- ④事業の定義は恒常的に検証されなければならない。

人間がつくるものに永遠のものはなく、事業の定義も陳腐化する。現実を直視し、組織の行動を、組織を取り巻く環境の新しい現実と、その使命に関する新しい定義と、新しい中核的強みに適合した行動にすることが必要である。

本来目的を達成したとき、急速な成長、予期せざる成功、予期せざる失敗に気づいた時には診断と分析から始め、「体系的廃棄」と企業の外で起きていること、顧客でない人々を学ぶことが企業永続にとって必要である。([企業永続の理論]1995)

